

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語や算数において、説明や要約をする記述式の問題や問題文の読み取り自体に苦手意識をもつ児童が少なからずおり、無回答・誤答が目立つ。
- 社会科では、情報量の多い資料から必要な情報を取り出すことや複数の資料を関連付けて読み取ることに課題が見られる。
- 理科では観察結果を確認し、科学的に思考・表現する力が不十分である。
- 音楽科・図画工作科・家庭科等については興味・関心の高い児童が多く、意欲的に取り組んでいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 文章を要約する力・文章で自分の考えを伝える力を身に付けさせる必要がある。また、語彙を増やし表現の幅を広げるなど、言葉の力を高める学習を充実させていく必要がある。
- 児童がめあてを明確にして、主体的に学習できるように工夫していく必要がある。
- 提示する資料を精選するとともに、資料の読み取りをする活動を多く取り入れる必要がある。
- 既習事項を確実に身に付けさせるための手立てが必要である。
- 教科書等書かれている必要な内容を読み取ること、読み取った内容をまとめることについては、教科の枠を超えて指導していく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 基本的な学習規律の定着 * 授業の約束五カ条の活用
- 基礎的・基本的な学習の定着 * 高三タイムの活用(東京ベーシックドリルの活用)
- 「読み解く力」の育成・向上に向けた取組 * RSTの活用
- 授業力向上
 - * 板橋区授業スタンダードの徹底 * ICT機器、デジタル教科書の活用
 - * 校内研究を柱に「分かる喜びを感じられる子」の育成を図る。(教科書の効果的な活用)
 - * OJT計画(若手育成・GIGAスクール・外国語・プログラミング)
- 一人一台端末の活用 * 学習の個別最適化と協働的な学び
- 探求的な学習の充実 * 総合的な学習の時間の充実
- 小中一貫教育の推進 * 学びのエリア共通目標への取組 * TOFASの分析と活用

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○アウトプットまでを意識した授業の展開 ・単位時間の学習で基本とする流れを大切に授業を組み立てる。 ・「～について説明しよう。」など、アウトプットを意識しためあてを明示する。 ・ICT機器の活用や協働学習を通して、多様な学び方を身に付けさせる。	○基礎的読解力の6つの分類を意識した指導 ・授業内容と特に関わりの深い力を明確にし、教科書を主たる教材とした指導を行う。 ・校内研究やOJTを活用し、「読み解く力」の育成についての理解を深め、授業に生かす。 ・授業作りの基礎となる教材研究の充実を図る。	○教科等との双方向性を意識したカリキュラム ・各教科等と総合的な学習の時間のねらい及び活動内容を効果的に連携させ、カリキュラムの充実を図る。 ・探求的な学習の視点から、約20時間程度の単元を構成するとともに、「育てたい資質・能力」を明確にした指導を行う。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○学びのエリアでの共通指導事項の徹底 ・「授業の約束五ヶ条」「五つの生活習慣」を常掲し、繰り返し意識できるように指導する。 ○チームで見守る指導 ・月曜日の夕会時に情報共有の時間を設定し、共通理解を図ることで、学年、専科、学力向上支援員等、全職員で連携した指導につなげる。 ○集団の一員としての自覚の醸成 ・道徳授業や学級活動での話し合い、適時性をもった指導等により、思いやりの心や規則を尊重する心を育て、集団の一員としての意識を高める。	○一人一台端末の活用 ・日々の授業において、タブレット等ICT機器を積極的に活用し、学習の個別最適化と協働的な学びの実現を図る。 ・デジタル教科書や書画カメラ等、視聴覚教材の効果的な活用を図る。 ○学びの場としての図書室の充実 ・図書館サポーター、保護者ボランティアと連携し、図書館機能の向上を図る。 ○学校と保護者が協力し、家庭学習を計画的に進めることで、家庭における学習習慣の定着を図る。 ○地域の人材・環境等を活用し、地域から学ぶ機会を増やす。	○校内研究 ・分かる喜びを感じられる子～教科書、資料を効果的に使う指導の工夫～の実現に向け、授業研究を柱に日常の授業を充実させる。 ○「読み解く力」の向上に向け、基礎的読解力の視点を取り入れた授業革新を推進する。 ○研修機会の充実 ・板橋区教育研究会、各種研究会等に積極的に参加し、教員としての専門性を高める。 ○ミニ研修会を実施する等、校内OJT計画を充実させることで、教員一人一人の指導力を高める。